

梓設計サステナビリティレポート

2019

株式会社 梓設計
コミュニケーションデザイン室



目次

本レポートについて.....	2
梓設計の概要.....	3
梓設計の組織.....	5
トップメッセージ.....	6
サステナビリティに向けた哲学と推進体制.....	7
品質と環境の統合的な推進.....	9
品質の確保.....	10
建築設計を通じたサステナビリティへの寄与.....	12
環境の保全.....	14
働きやすい職場づくり.....	15
企業市民としての活動.....	17
コンプライアンス.....	20
コーポレート・ガバナンス.....	21
2018年度の受賞プロジェクト.....	22

本レポートについて

梓設計は本レポートを、サステナビリティ（持続可能性）に関連する梓設計の考え方、計画、活動、成果・課題について、関心をお持ちの幅広いステークホルダーの皆様に報告するために発行しています。

■対象組織

株式会社 梓設計

■報告対象期間

2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）

■参照したガイドライン

GRIスタンダード（Global Reporting Initiatives）

■お問い合わせ窓口

株式会社梓設計

総務部 総務グループ 山口功二

〒144-0042 東京都大田区羽田旭町 10-11 MFIP羽田 3F

Tel: 03-5735-3211

梓設計の概要

※2019年7月18日現在

名称

株式会社 梓設計

代表者

杉谷 文彦

創立

昭和 21 年 10 月 10 日

資本金

9,000 万円

社員数

625 人

資格

一級建築士事務所登録 東京第 380 号／

建設コンサルタント登録建 01 第 5281 号（港湾及び空港部門・都市計画及び地方計画部門）

認証

ISO9001 品質マネジメントシステム登録

ISO14001 環境マネジメントシステム登録

認証範囲：建築物の設計業務、監理業務並びに関連する周辺業務
（海外事務所を除く）

本社

144-0042 東京都大田区羽田旭町 10-11 MFIP羽田 3F

（企画営業部代表）Tel. 03(5735)3210

（総務部代表）Tel. 03(5735)3211

資格者数

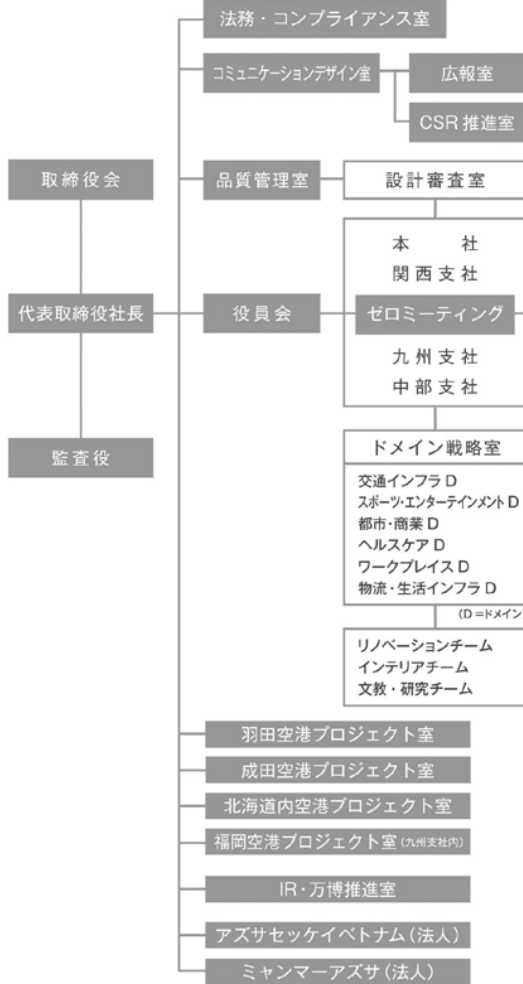
一級建築士：320 名／構造設計一級建築士：17 名／設備設計一級建築士：15 名／

技術士：7 名／再開発プランナー：10 名／建築設備士：61 名／インテリアプランナー：16 名

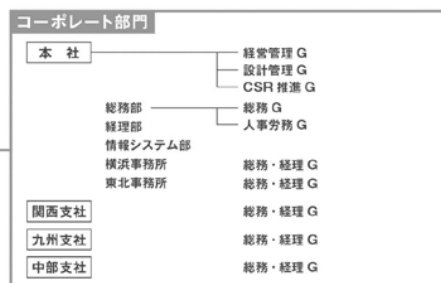
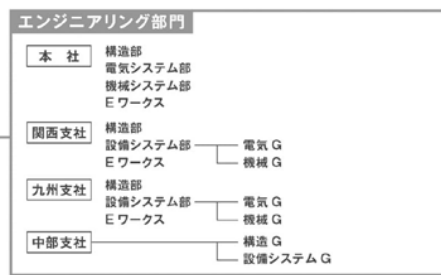
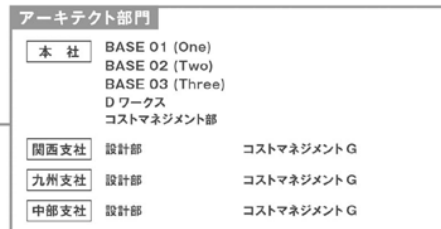
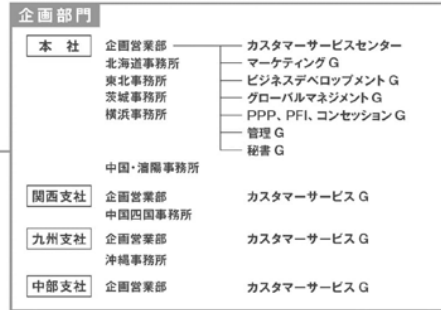
加入団体

(一社) 日本経済団体連合会 (公社) 劇場演出空間技術協会 (一社) 鉄道建築協会 (一社) 日本建築家協会 (一社) 日本建築美術工芸協会 (一社) 日本建築学会 (特非) 日本防災士機構 (公社) 日本建築士会連合会 (一社) 日本電気協会 (一社) 日本建築士事務所協会連合会 (一財) 日本航空協会 (一社) 東京都建築士事務所協会 (一社) 全国空港ビル協会 (一社) 公共建築協会 (一社) 海外運輸協力協会 (JTCA) (一財) 日本建築センター (一社) 日本鋼構造協会 (公社) 全国市街地再開発協会 (一社) 日本免震構造協会 (一社) 再開発コーディネーター協会 (一社) 日本建築構造技術者協会 特別認可法人 東京商工会議所 (公社) 地盤工学会 (公社) 国際観光施設協会 日本風工学会 (一社) 日本医療福祉建築協会 (公社) 空気調和衛生工学会 (公社) 全国自治体病院協議会 (一社) 電気設備学会 (公財) 日本体育施設協会 (一社) 建築設備技術者協会 (公社) 日本図書館協会 建築設備家懇談会

梓設計の組織



- 加入団体一覧**
- (一社) 日本経済団体連合会
 - (公社) 日本建築家協会
 - (一社) 日本建築学会
 - (公社) 日本建築士会連合会
 - (一社) 日本建築士事務所協会連合会
 - (一社) 東京都建築士事務所協会
 - (一社) 公共建築協会
 - (一財) 日本建築センター
 - (公社) 全国市街地再開発協会
 - (一社) 再開発コーディネーター協会
 - (公社) 国際観光施設協会
 - (一社) 日本医療福祉建築協会
 - (公社) 全国自治体病院協議会
 - (公財) 日本体育施設協会
 - (公社) 日本図書館協会
 - (公社) 劇場演習空間技術協会
 - (一社) 鉄道建築協会
 - (一社) 日本建築美術工芸協会
 - (一財) 日本航空協会
 - (一社) 全国空港ビル協会
 - (一社) 海外運輸協力協会 (JTCA)
 - (一社) 日本調音協会
 - (一社) 日本免震構造協会
 - (一社) 日本建築構造技術者協会
 - (公社) 地盤工学会
 - (公社) 空気調和衛生工学会
 - (一社) 電気設備学会
 - (一社) 建築設備技術者協会
 - (一社) 日本電気協会
 - 特別認可法人 東京商工会議所
 - 日本風工学会
 - 建築設備家懇談会



(G=グループ)
190701

トップメッセージ



温かい建築を、誠実に心を込めて

「現代の建築要請に正しく応じるためには、個の属する組織体が社会の公器として、より強い力でその責任を持続的に果たすことである」との確信のもと、創業者清田文永は、類を見ない組織志向型の設計事務所として昭和 21（1946）年、梓建築事務所を開設しました。以来 70 年余、おかげさまで梓設計は今日も、新たな挑戦に向けて歩みを続けています。

これまで梓設計を育てていただき、支えて下さったクライアントの皆様をはじめ、ご指導賜りました皆様に心より感謝申し上げます。厳しい時代を率いた清田ですが、いつも社会や人々への優しい眼差しを忘れませんでした。その想いを、私たちは経営理念の「質実優美」として引き継いできました。

今、私たちの想いは、世界中を飛び回る人々の活動を支え、アスリートの最高のパフォーマンスと感動を生み、傷ついた人に安らぎと希望を与え、毎日の暮らしの安全と安心を守り、独創とひらめきのゆりかごとなり、子どもたちの笑顔をやさしく包み、そして、ささやかな幸せを遠くで見守る、そのような建築をつくることに注がれています。こうした仕事の積み重ねは、サステナビリティへの寄与という今日的な課題への挑戦にも繋がっています。

梓設計はこれからも、誠実に心を込めて、温かで人々の心に届く建築を日本、そして世界に届けてまいります。

株式会社 梓設計

代表取締役社長 杉谷 文彦

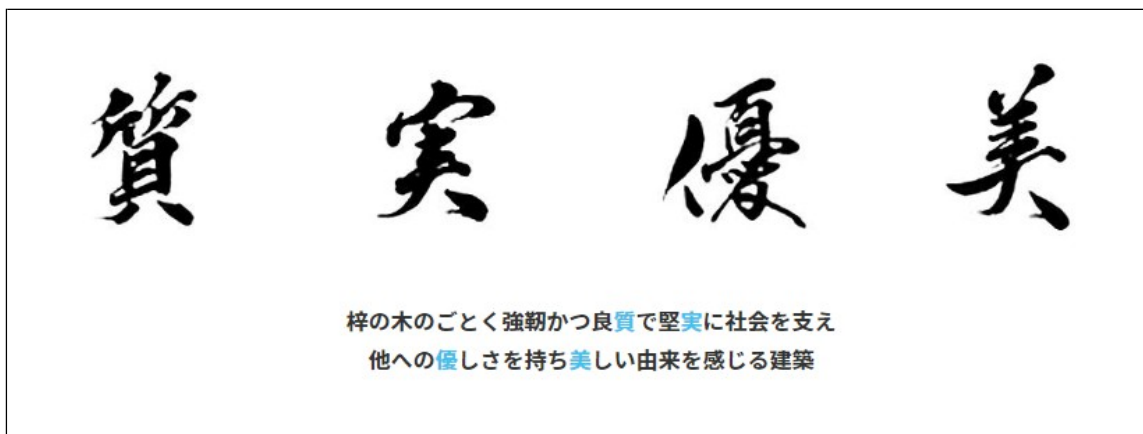
サステナビリティに向けた哲学と推進体制

■ 経営理念に根差した姿勢

梓設計は、「質実優美」を経営理念として掲げています。手がけるすべての建築物において、強靱かつ良質で、堅実に社会を支え、環境や人々への優しさを持ち、美しい由来を感じる形を追求するという梓設計の決意を示すものです。そのルーツは、創業者・清田文永が、凜と立つ《梓》の木に合わせ見た、設計に対する熱き思いにあり、建築に向き合う設計者の“作法”として、現在まで受け継がれています。

今日の世界的な要請であるサステナビリティ（持続可能性）に対しても、経営理念に根差した確固たる姿勢を貫いています。建築を通じて社会的な課題の解決に寄与するとともに、自らの事業活動が及ぼす人、地域、社会、そして環境への正の影響をより多く、負の影響をより軽くしていく、地に足の着いた取り組みを重ねています。

経営理念



■ 推進体制

CSR 推進室を設け、全社的なサステナビリティ活動を推進しています。5名の社員が推進業務を担っています（いずれも兼務）。室長は執行役員が務めており、活動計画と成果の審議は経営会議で行っています。

■ ステークホルダーとの対話

梓設計が考える設計は、社会あるいは施主の期待と、地域・場所が持つ脈絡（コンテキスト）とを、接続（橋渡し）する行為です。

そのため、各プロジェクトに取り組むにあたっては、施主をはじめとする主要なステークホ

ルダー（プロジェクトの成否に影響を及ぼす、あるいはプロジェクトから影響を受ける人や組織）の期待や要望を把握するとともに、プロジェクトサイトの場所性を多角的に調べ、設計に反映するように努めています。その中では、直接お話を伺うこともあれば、資料等から間接的に知る場合もあります。

梓設計が考える設計



品質と環境の統合的な推進

梓設計は、業務全般について「統合業務マニュアル」を整備し、品質と環境保全を一体的に捉えて推進しています。経営理念のもとに「品質方針・環境方針」を制定するとともに、目標も一体的に設定しています。

品質方針・環境方針（2010年9月1日制定）

<品質方針>

1. 顧客の要請に応え、“明快な根拠”と“高い品質”そして“時代を先導するデザイン”を備えた建築を実現する。
2. 顧客満足の向上を目指し、品質マネジメントシステムの有効性の継続的改善を実現する。

<環境方針>

1. 持続可能な循環型社会の形成と汚染の予防を目指し、環境に配慮した建築の実現に取り組む。
2. 環境に配慮した建築の設計及び監理を通して、社会的な活動に参画し、環境保全への啓発活動を行う。
3. 環境関連の法規・規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守する。
4. 健全な環境パフォーマンスの向上を目指すとともに、定期的なレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を図る。

全社 品質・環境目標（2018年度〈2018年9月～2019年6月〉）

- 1) 対外的に評価される質の高い空間の実現
- 2) 品質マネジメントシステムの適正運用による顧客満足の向上
- 3) 業務をまかせられる人材の育成
- 4) 地球の環境負荷低減への貢献

品質の確保

■ 基本的な考え方

経営理念に基づき、強靱かつ良質で、堅実に社会を支える建築を実現する努力を惜しまないことが、梓設計の基本姿勢です。

梓設計の品質方針は、「顧客の要請に応え、“明快な根拠”と“高い品質”そして“時代を先導するデザイン”を備えた建築を実現する。」と定めています。

■ 品質マネジメントシステム

品質に関する基本的な考え方を組織的・体系的に実践するため、梓設計では全社的に品質マネジメントシステムを運用しています。品質マネジメントシステムの適正な運用を通じて、顧客満足の上を目指しています。

品質マネジメントシステムの信頼性を確保するため、ISO9001 認証を取得しています。対象は、建築物の設計業務、監理業務並びに関連する周辺業務（海外事業所を除く）です。

■ お客様の要請に応える

お客様の要請に応えるためには、お客様とのコミュニケーションを密にし、求められていることを的確に把握することが欠かせません。その上で、お客様の満足を得られる成果品、サービスの提供に力を尽くしています。その一環として、設計と要請との不整合のチェック、監理における丁寧な確認、業務プロセス全般の改善等に取り組んでいます。

また、努力が及ばず要請に応えきれなかった場合には、お客様からのフィードバック情報を社内で共有するとともに原因を分析し、再発の防止に努めています。

設計・監理における梓設計の取り組み

AI 進化、デジタル化が進みグローバルに激動する世界にあって、建築に求められる用途や機能も多様に変化し複雑化する環境にあります。また地球環境への視点や想定外の災害への対応も社会から求められています。

私たちはこのような環境にあるお客様に寄り添い、課題・目標・テーマ・プロセス・成果を共有し、あらゆる建築の設計に立ち向かいます。ご要望をベースに、敷地や環境の正確な調査、積み重ねてきた経験に基づく緻密な分析により、お客様の価値を高めるコンセプト・目標を設定します。そして設計から監理まで、実績のある設計者や監理者と構造、設備からインテリア、ランドスケープ、コストマネジメント等の各種エキスパートが、個々の力を最大限に活かしながらチームとして結集し、環境にやさしく、デザイン性、機能性、安全性、経済性に優れた建築を確実に達成していきます。

■人材育成

梓設計では、品質確保を担う人材の育成も重視しています。部門毎に人材育成プログラムを策定し、計画的に実施するとともに、評価基準を明確にし、各従業員の到達度評価を可能にしています。

2018 年度の人材育成プログラム

プログラム	概要	回数・参加者数等
基礎技術研修	入社 2 年目の社員を対象とする、幅広い基礎技術を習得する研修	17 回

建築設計を通じたサステナビリティへの寄与

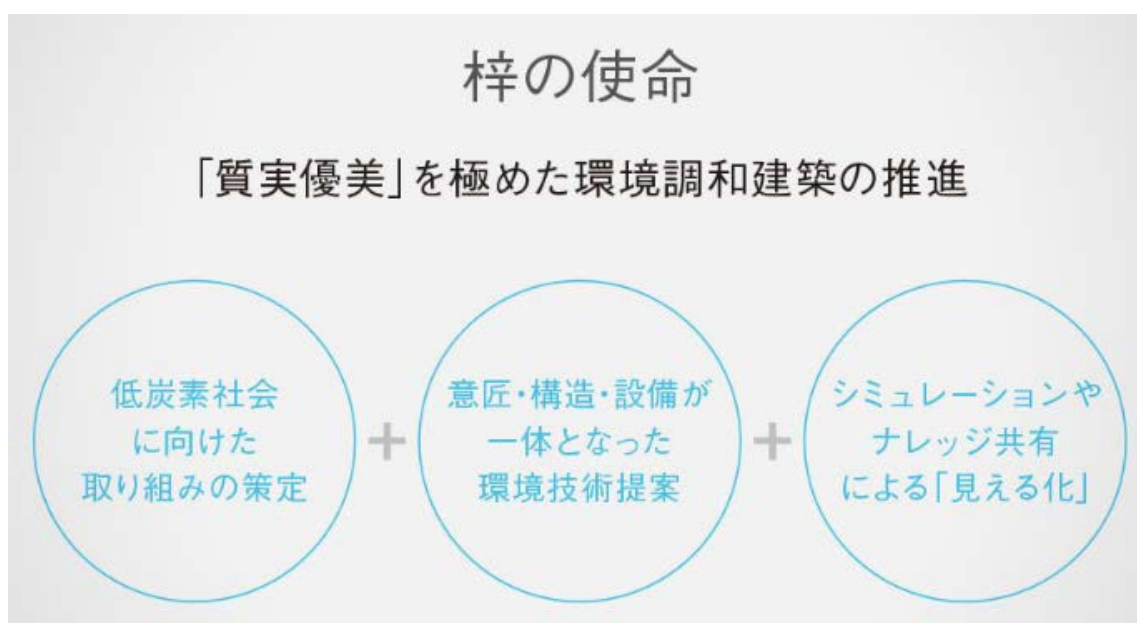
■ 環境調和建築の推進

梓の木のごとく強靱かつ良質で、堅実に社会を支え、環境や人への優しさを持ち、美しい由来を感じる形状を追求する“梓スタイル”は、地球環境の保全に貢献していく上での梓設計の指針でもあります。

梓設計は、約 30 年前から環境技術の実績を積み重ねてきた環境デザイン力を駆使して、低炭素社会の実現をリードしています。建物のロングライフ化、エコマテリアルの活用、自然エネルギーや先進の省エネルギー技術の導入をはじめとする多様な切り口から、環境調和建築にアプローチしています。

コンサルティング部門に「環境ソリューション部」を置き、高い専門性に基づく設計サービスを提供しています。

なお、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場となり、日本を代表する環境調和建築の事例ともなる新国立競技場の建設にも、設計・監理主体として取り組んでいます。



梓設計の環境調和建築へのアプローチ

冷暖房負荷の低減	建物の高断熱、高气密化を基本に、屋上緑化、地下ピットを利用したクールチューブを導入し、空調負荷の少ない建物を推進します。

自然エネルギーの活用	太陽光、風、地熱などの自然エネルギーの活用に留まらず、建物の立地環境固有の地形や気象条件に最適化した設計を推進。自然環境と調和する、環境建築をめざします。
エネルギー資源の有効活用	ヒートポンプ、LED 灯などの先端技術を積極的に活用し、CO2 の大幅削減を可能にする環境デザインを推進します。
建物の長寿命化の推進	保守・更新・改修が容易な計画とするとともに、フリーアクセスフロア、システムトイレなど、将来の変化に対応しやすい工法を採用することにより、建物の長寿命化を推進し、資源の有効活用や、廃棄物の削減にも貢献します。
環境シミュレーション	設計段階に於いて、建物内の気流や熱環境、光環境をコンピュータによる数値解析手法を用いて、実際の室内条件を仮想し検証を行い、快適性の実現を高めます。

ZEBプランナー

梓設計は「省エネルギー投資促進に向けた支援補助金（省エネルギー投資促進支援補助事業のうち住宅・ビルの革新的省エネルギー技術導入促進事業）（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）実証事業）」において、一般社団法人環境共創イニシアチブが公募する「ZEB プランナー」に登録をしています。

目指すべき ZEB オーダーを共有し、各 STEP で課題を解決する「ZEB ロードマップ」も用いて、省エネ建物の普及に努めます。



■ 都市の魅力や価値の創出

梓設計は、都市計画・地域計画の支援において、法制度や計画制度を駆使し、その場所の持つ潜在価値を最大限に引き出すことにより、眠っていた魅力を創出します。魅力ある都市が、人と人の出会いを生み、社会活動や文化活動の誘発につながり、都市がさらに活力に満ちていく循環を生み出す『社会環境デザイン』に取り組んでいます。

環境の保全

■環境保全への継続的な取り組み

梓設計は、環境方針において、健全な環境パフォーマンスの向上を目指すとともに、定期的なレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ることを定めています。その一環として、ISO14001 の認証を取得しています。対象範囲は、品質マネジメントシステムに関する ISO9001 と同様に、建築物の設計業務、監理業務並びに関連する周辺業務（海外事業所を除く）です。

■環境負荷低減意識の向上

梓設計の環境保全活動では、「地球環境と調和する建築の実現を目指し、実務を通して積極的に提案する」「設計実績、技術を積極的に発表し、環境保全への啓発活動を実施する」ことに加えて、「社内の環境負荷低減意識の向上を目指す」ことも目標としています。事業活動と環境との関わりを踏まえて、省エネ・節水をはじめとする地道な活動にも取り組んでいます。

働きやすい職場づくり

■保健衛生

梓設計の就業規則は、会社および社員は常に保健衛生に努めなければならないと定めています。会社は、各社員が毎年定期にまたは随時に健康診断を受診できる条件を整え、社員は、診断結果の写しを会社へ提出することとしています。事情により所定の健康診断を受けることができない社員には、他の医師の診断を受け、その結果について証明書を提出することを求めています。

また、会社は、健康管理上必要と認めた社員に対しては、転勤、担当業務の変更、勤務時間の短縮、その他健康の保持に必要な措置を講じることとしています。

推進組織として、執行役員をはじめとする経営層や担当部署の管理職層が出席する「安全衛生委員会」と、衛生管理や総務の実務担当者、労組代表者、そして産業医が出席し、より実務的な検討を行う「衛生委員会」を設けています。

■健康とウェルビーイングを促す職場環境づくり

梓設計は、2019年8月に新本社へ移転することを機に、健康とウェルビーイングを促す職場づくりに取り組んでいます。最先端のセンシング・AI技術を活用し、空気質、温熱、音、光といった環境要素の最適な制御を追求します。社員もスマートホンで照明や空調の制御ができ、フリーアドレスで自分が求める環境へと移動できるようにしています。他にも幅広い取り組みを実施し、健康とウェルビーイングに関する10のコンセプトを掲げるWELL認証の取得を予定しています。社員への定期的なアンケート調査を通じて課題を見出し、継続的な改善を行っていく計画です。

■ワークライフバランス

梓設計では、就業規則において年次有給休暇制度を定めています。半日単位での取得ができ、年に5日以内分は1時間単位での取得もできるようにして、できるだけ柔軟な働き方ができるようにしています。年度内の利用を推奨しつつ、次年度にも繰り越せるようにしています。

社員が業務上負傷し、または疾病にかかり療養のために休業した期間、産前産後休業の期間、育児休業および介護休業の期間には、年次有給休暇制度を適用します。

なお、2ヶ月間の総労働時間が400時間以上の社員は1日、430時間以上の社員は2日のリハビリ休暇を取得することができます。

■ライフイベント等における支援

梓設計では、以下のライフイベント等について特別休暇制度を適用しています。

また、産前産後における休業および業務の軽減や、育児休業、子の看護休暇については、

「産前産後休業および育児休業規程」を定め、サポート制度を別途設けています。介護休業、介護休暇についても、「介護休業規程」を設けています。

■ダイバーシティ

梓設計は、より優れたサービスの提供に向け、職場のダイバーシティを推進しています。個々人の能力を重視し、性別や国籍を問わない採用や給与設定を行うとともに、ライフイベント等における支援をはじめとする活動を通じて、誰もが働きやすい職場づくりに取り組んでいます。日本のみならず国際的にも重視されている女性活躍には、特に注力しています。

主要パフォーマンスデータ

項目	2017 年度	2018 年度
育児休業利用者数	8 名	8 名
社員の女性比率	23.9%	23.6%
離職率	4.0%	4.4%

企業市民としての活動

■活動方針

梓設計は、「平成よりちょっといい未来を、ともに。」をコンセプトに、企業市民としての活動に取り組んでいます。



■地域共生活動

ユニセフ、経団連自然保護基金、国境なき医師団といった非営利活動組織への寄付による活動支援を行っています。2018年度は7,715,244円を寄付しました。

■教育・次世代育成活動

梓設計社員が教育現場を訪問したり、逆に生徒さんが梓設計のオフィスを訪問したりという活動を行っています。2018年度には、当社が校舎の設計を手がけた川崎市立小杉小学校（2019年4月に開校）で、「木材活用」と「防災計画」をテーマとした2回の訪問授業を当社社員が行いました。また、品川学園の生徒さんを当社のオフィスへ招待し、建築設計事務所の仕事について紹介しました。



川崎市立小杉小学校での訪問授業

■文化・芸術創造活動

2018年度の活動として、障がいを持つ子どもたちが描いたスケッチや落書きをデザイン化する活動を展開するクロスチームとのコラボレーションで、そのデザインをお客様用のカップに活用。力強く美しい絵柄のコラボカップを製作しました。受付スペースには原画も展示しています。梓設計は、この活動の普及を今後も応援していきます。



原画の展示



お客様用のカップ

■災害復興支援活動

梓設計は、トゥールーズ日仏文化センターが主催する「TOHOKU PROJECT」へ協賛し、今後日本とフランスの両国で展開される学生同士の文化交流、スポーツを通じた体験学習などに参画・支援していきます。

「TOHOKU PROJECT」は、東日本大震災での復興支援を機に深まった縁を活かした、ラグビーでの高校生同士の交流プロジェクトです。主催はフランスのトゥールーズ日仏文化センターで、今年開催されるラグビーワールドカップ 2019 大会を通じた交流や高等学校での授業参加体験、東北ならではの地域体験などを計画しています。

当社も今後の活動に積極的に参画し、設計活動のみならず、新たな日仏交流を通じた復興支援を行ってまいります。



TOHOKU PROJECT

コンプライアンス

■ 基本姿勢と取り組み

「強靱かつ良質で、堅実に社会を支え、環境や人々への優しさを持ち、美しい由来を感じる形」を実現する仕事をしていくにあたり、コンプライアンス（法規や社会規範の遵守）は欠かすことができません。

梓設計は、事業活動の基礎にコンプライアンスを位置付け、役員および社員への定期的な意識付けを行っています。会社として建築関係法規をはじめとする明文化されたルールや社会に広く共有されている暗黙のルールを守った仕事をするを繰り返し徹底するとともに、全ての社員に、コンプライアンス違反行為を具体的に説明し、懲戒の対象となることを周知しています。

主要パフォーマンスデータ

項目	2017 年度	2018 年度
コンプライアンス研修実施回数・参加者数	2 回	2 回

コーポレート・ガバナンス

■コーポレート・ガバナンス体制

経営理念のもと、社会の公器として梓設計を運営しています。幅広い能力と知見を有する9名の取締役によって構成される取締役会が、会社の基本的な方向性や計画を審議・決定します。そして、執行役員チームが、その実行を担当しています。

■役員

代表取締役社長

杉谷 文彦

取締役副社長

安野 芳彦、喜多村 成雄

常務取締役執行役員

村本 一彦、柳田 耕治、和出 知明、門脇 正晃、前田 隆、有吉 匡

専務執行役員

関 洋之

常務執行役員

野村 嘉彦、柴田 昭彦、永廣 正邦、原口 修、菅根 義明、中山 明宗

執行役員

那須 浩、小林 裕明、田中 善章、櫻井 康裕、小林 直彦、渡邊 和幸、田村 慶太、安川智、内山 裕二、稲 晋一、外山 博文

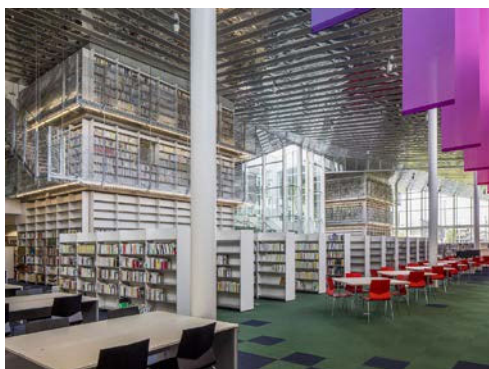
監査役

星野 幸義

2018 年度の受賞プロジェクト

2018 年度に受賞したプロジェクトは以下の通りです。

プロジェクト名	賞
野々市市文化交流拠点施設「学びの杜ののいち カレード」	石川建築賞、優秀賞
<ul style="list-style-type: none"> ・女川町庁舎 ・品川リハビリテーションパーク・品川区立大崎図書館 ・京都府立鴨沂高等学校 ・長門市多目的交流広場クラブハウス ・東大阪市花園ラグビー場 	2018 年 照明普及賞 (一般社団法人 照明学会 照明普及分科会)
・TOTO ミュージアム	第 8 回北九州市都市景観賞 建築デザイン賞
・ミクニワールドスタジアム北九州	第 8 回北九州市都市景観賞 建築デザイン奨励賞



学びの杜ののいち カレード



TOTO ミュージアム